Vol.37 『会員と会議所との係わりあいは』 （平成16年4月10日）

今から９年前、会員数凡そ 2,200 人で創立された君津商工会議所･･･今は２千名を少し割って、1,942 名です。

不況の中で会議所に寄せる期待と願い、そして諦めに似た思いもあるかと思います。国と国民、会議所と会員の関係。かつてケネディは「国が何かをしてくれるのではなく、国のために何が出来るかを考えよ」と訴えたが、会議所は会員の皆さんがどう活用されるかに価値、経済効果が生まれるものであるとご理解いただきたいと思います。

いくつか具体的事例を列挙してみますと、金融公庫利用者 140 件、労働保険事務代行、決算書作成代行約 700 件、かずさ共済加入 2,377 口、経営相談、窓口経営相談件数約 4,000 件となっております。

これからの時代は規模の大小にかかわらず、月次決算の作成が必要です。月次決算書の作成により経営内容の把握を行い、激変する環境変化に備えることが大切です。時には金融保証価値として評価されます。

また今の不況は心の中に起こる不況ですから、商工会議所も信頼され心を許せる経営相談相手になれる様努力して参ります。

15 年度の諸行事について見ますと、少ない予算の中で、関係団体、各組織が協力して相乗効果をあげ、更に自己主張をしっかり持って経済効果が得られるイベントをと強くお願いしました。その結果、会員の皆様の努力で大きな成果を上げ、自信を取り戻してくれました。

一方、市民ふれあい祭り・きみつ七夕祭り延べ９万人、久留里城祭り６千人、小櫃ふるさと祭り２千人、小櫃商工祭り１千人、清和コスモスフェスティバル３千人、小糸グランドゴルフ 150 人、等々間違いなくふくらみと広がりを見せてくれております。視察研修もまた、青年部合同 2 回、女性会合同 2 回、各部会合同研修等にあわせて 300 名近い人達の参加を頂いております。「きみつ」は今大きく変化いたしました。私達もまた変わり行く「きみつ」の思考に応えられる様、多くの仲間たちと知恵と力をあわせて流れに棹さしたいものです。『少し苦労する人に愚痴あり、大きな苦労をする人に知恵が生まれる。』と諺にあります。